

知るこころからはじめよう

自然豊かな上関の海には、数多くの希少生物たちが生活しています。その代表的なものをご紹介します。

◆カンムリウミスズメ

地球上に5千羽ほどしかいないといわれ、ほぼ日本にしか生息していない世界的な希少種。全長24cmくらいで白と黒のコントラストがかわいいう海鳥です。名



カンムリウミスズメ (撮影: 飯田知彦さん)

前の「カンムリ」は、頭の上に冠状の羽根(冠羽・かんづ)をもつことに由来していますが、普段はめつたに冠羽は立てないようです(写真の丸の中は、珍しく冠羽を立てている時の写真です)。つばさが小さくて体が重いため、飛ぶのはあまり得意ではありませんが、足には水かきがあり、泳いだり潜ったりするのは得意です。海中を飛ぶように泳いでイワシなどの小さな魚を捕まえて食べます。

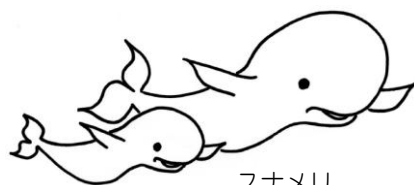
1年間のうち、陸上でその姿を見かけるのは、雛をかえすため卵を抱える時期の約30日間だけで、海に出てしまつたところにいるかわからなくなってしまうため「謎の海鳥」と言われてきました。その後の研究・調査により、瀬戸内海での生息が数か所を確認され、特に瀬戸内海西部(広島県から山口県にかけて)の海では、1年を通

してその姿を見ることができ、その中でも上関の海は特別で、雛を育てる家族単位のカンムリウミスズメの姿が確認され、この海域での繁殖の可能性もあると期待されています。

※詳しくは「日本野鳥の会」のホームページをご覧ください。
<http://www.wbsj.org/nature/kisyuu/sw/>

◆スナメリ

クジラの仲間の中では一番小さいネズミイルカ科に属します。体は白っぽい灰色で、体長1.5m~2m、体重は50~60kgと人間の大人くらい大きさです。イルカのようになくちばしや背びれがなく、その丸っこい顔はとても愛嬌があります。水深の浅い沿岸や島と島の間、岬の先の流れの速いところなどにいることを好みます。



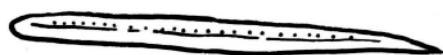
スナメリ

スナメリは瀬戸内海、食物連鎖の頂点にあり、その生息数は海の豊かさのバロメーターとも言えます。かつて瀬戸内海沿岸には多くのスナメリが生息していましたが、上関を中心とする周防灘以外での生息数は激減しています。上関の海はスナメリが繁殖可能な条件を備えた貴重な海なのです。中でも鼻線島から祝島あたりの海域には特に多く生息し、運が良ければ定期船からも見る事ができます。5月頃から夏にかけては、子育て中のスナメリの群れも見られます。

◆ナメクジウオ

魚のように見えますが、背骨や頭蓋骨が

なく、目もありません。体は細長く乳白色ですが、大部分が半透明なので体の構造が外から見えます。暖かく浅い海に生息します。幼生は数ヶ月間は海中をただよう浮遊生活を送り、その後体長が1cmほどになると、海底の砂に浅く潜って生活します。

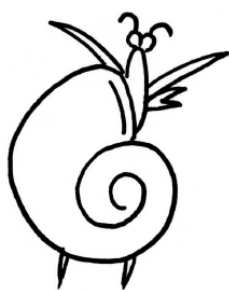


ナメクジウオ

成長は遅く、1年間に1cmくらい大きくなるだけで最大体長は約6cmです。海砂採取や有害物質による汚染によって、日本のあちろちろでは壊滅状態との報告がある中で、長島・田ノ浦の海では今も、浅くてきれいな砂地に多く生息しています。

◆ヤシマイシンとヤシマイシン近似種

ヤシマイシンは、殻長約0.8mm、殻径約1.4mmの半透明のとても小さな巻貝です。その名の示す通り上関町の八島で1997年に発見されました。北半球の太平洋全域を通じて初めて発見されたカクメイ科の貝です。その後、長島・田ノ浦や天田島でもヤシマイシンの近似種が見つかっていて、上関町の海はヤシマイシンの重要な生息地とみなされています。また、大分県の姫島でもヤシマイシンのヒメシマイシンが見つかっています。このように周防灘周辺という狭い海域でヤシマイシンが複数種存在している例は、世界的にみても他に例がないそうです。



ヤシマイシン

この他にも、オオミズナギドリ・ハヤブサ・カラスバト・ナガシマツボ・ミミズバゼ・スギモクなど、上関の海は希少生物の宝庫です。機会があればまた紹介してみたいと思います。

◆カサシャミセン

カサシャミセンは5mmほどの丸いかサ

ガイに似た生物で、腕足動物の一種です。腕足動物は古生代によく栄え、多くの化石が発見されています。現在の海では、湾奥の干潟や深海、海底窟などにわずかに生き残っていて、「生きている化石」と呼ばれています。長島・田ノ浦の潮間帯(満潮線と干潮線の間の地帯で、一日のうちに陸上になったり海中になったりする部分)で見つかったカサシャミセンもその1つで、岩礁地帯の岩の下面に付着しています。岩との間に薄い腹殻を持ち、ほとんど運動能力を持たず、岩の表面に貼りついていて、腕足動物特有の渦巻状の肉質からは無数の細長い触手が出ています。海の汚染に弱いカサシャミセンの生息は、長島周辺がいに清浄な海域であるかを物語っています。



カサシャミセン

環境の変化に弱い希少生物にとって住みやすい場所は、私たち人間にとっても安心して住める場所といえます。貴重な生き物がこれからも生き続けることができる環境を未来に残すため、町が率先して自然環境保護に乗り出すべきではないでしょうか。また小中学校の教育でも、地元希少生物に関する授業なども実施してみたいと思います。上関が誇る豊かな自然をもっともっとアピールしたいものです。